

かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314



閑静な住宅街に建つ明石市分教会

JR姫路駅・山陽電鉄・明石海峡大橋・第二神明道路にも程近く、元は個人の別荘で内部の造りも凝っている。

立教180年
7月号

れからお産を迎える人は、教祖が存命でお働き下さり、お守り下さっているのです、そのことを身に感じて心配なくお産を迎えて下さい、と話を締めくくられた。

質疑にも詳しく応じられ、これからお産を迎える妊婦や女子青年にとっても、参考になる内容だった。

子育て中のお母さんが対象ということもあつて、30人の託児申し込みもあり、親子ルームではビデオ映像を見ながら受講した。

詰所看板 取付けひのきしん

6月21日大教会月次祭後、子どもおぢばがえりの看板取り付けひのきしんのため7人で詰所に向かった。翌22日は、現地のひのきしん者も含め12人で、午前7時30分から詰所玄関前と、2階の看板取り付けをした。今年から新たな試みで、玄関前に一面だけ写真を組み合わせてのモザイク画を取り入れた。色あせを防ぐため、取り付けは7月25日午後4時から、模擬店のテント設営と同時進行で行う事にした。22日



モザイク画に防水処理



枠組みの準備

の作業が大幅に縮小されたため、午前10時には完了する事が出来た。

(虫 明 立 生)



高屋委員部長のお話

婦人会(上原きよ紀支部長)は、7月1、2の両日、委員部長後継者講習会を開催しました。参加者は25人でした。初日、支部長様から、元の理を台に委員部長の後継者としての自覚について、聞かせて頂きました。また、先輩委員部長として、武内正美・高屋委員部長は、お道を通る女性としての心構えをお話の中でわかりやすく教えて下さいました。翌日は枠を広げて、委員部長後継者

委員部長 後継者講習会 開催 婦人会



各部屋に別れての女鳴り物練習

でなはいけれど、教会の二男、三男さんの、お嫁さんを含め、婦人会笠岡支部後継者講習会としての開催でした。女鳴り物の練習では、初めて鳴り物にふれた参加者も沢山おられました。田中つかさ・福山委員部長が、お道のすばらしさを伝えるお話をして下さい、その後のグループワークでは、参加者の意見を基にテーマを決め、和気あいあいと信仰を深める話が出来ました。日頃、子育てや仕事、家庭の事に追われる若い女性の皆さんが、信仰を見つめ直し、仲間作りをする貴重な時間を持つた事に、喜んで笑顔で帰っていかれました。(記録係・上原宏恵)



畑だった箇所での草取り

青年会笠岡分会(上原明勇委員長)は、7月3日、有志ひのきしん隊として、久津分教会の草抜きを行い4人が参加した。

元々畑だった場所に草が生い茂っていたため、草刈機、除草剤を使わず、一本一本手で抜きながらの作業となった。

続いて7月6日、旧弥高山分教会で、

**「有志
ひのきしん隊」実施**

青年会



生い茂る雑草伐採



手作業での清掃ひのきしん

大教会管理部(虫明立生部長)と合同

講師の田中つかさ・福山分教会長夫人は、稿本天理教祖伝の中から「教祖57才の時、おはるが、初産のためお屋敷へ帰って居た。その時、教祖は、『何でも彼でも、内からためしして見せるで』と仰せられて、腹に息を三度かけ、同じく三度撫でて置かれた。これがをびや許しの始まりである」と話しを起こされ、次に村人のゆきがをびや許しを願い出た。その時教祖は「人間思案は一切要らぬ。親神様に凭れ安心して産ませて頂くよう」と、諭され

育成掛(中島誠治主任)は、7月21日祭典終了後、午後1時15分から会議室で「よふぼく勉強会」を開催、約40人が参加した。テーマは「をびや許しの不思議」。

よふぼく勉強会開催

テーマは「をびや許しの不思議」

7月月次祭後

育成掛

で、敷地内の整備を行い。8人が参加した。草刈機とのこぎりなどで、生い茂った草や竹などを取り除いていった。

……と教祖伝を読み上げられた。

講師はその後、自身の体験から長女の誕生、また繋がる兄弟の出産から学んだ、をびや許しの有り難さ、尊さ、御供の理合い、夫婦が心を合わせ出産を待つ幸せな心情を話された。

そして夫婦の治まり、親孝心の大切さを話され、明るく勇んで、授かった子どもをよふぼくに育てましよう話を締めくくられた。

た。と教祖伝をご紹介された。出産後、産後の熱で臥せてしまったとき教祖は「疑いの心があつたからや。」と仰せられて教祖の教えをよく守り親に凭れて通ることの有り難さを話された。



をびや許しの不思議について

談話室



天啓

稲富士分教会 よふぼく

須毛田 英 尋

昨年「クールジャパン」と銘打って投稿させて頂いたのは、ひとえに永年にわたり悟らせて頂いた水の心を書かせて頂いたからです。

クールとは冷静という意味で、静とは青と争の二字から成り、青とは治める、鎮める事であり、よつて争いを治めるが静の世界。いくら人類が進化している様に見えても、争いが続く様だと、真の進化とは言えない。青は文字通り水の色。水の心こそ今人類が学ばなければ、神の身体であるこの世が神の望む所から大きく離れたものなるのではと危惧している。

神が水の姿になってお現れになられた大変貴重でめづらしい自体験を皆様には是非ともお読みして頂きたく今回の投稿をさせて頂きました。

まさに啓示とも天啓とも言えるのでしょうか。天啓とは神が人知の図り知

れない事を愛をもって示すとある。それは昭和36年、私が小三のある日の出来事でした。いつもと何ら変わる事なく居間で横になっていましたら、突然腰が抜け下半身がマヒしどうする事も出来なくなり、大声で台所でまかないをして下さっている山成満寿代おばを呼びました。――満寿代おばは母の兄嫁でその年、当時は後月郡梁瀬で夫と息子で暮らしていましたが、再度息子の大きな身上から稲瀬をどうでも教会にとのお声から田地を売り、裸同然で夫婦で広島市横川町に引っ越して来られました。――びつくりした満寿代おばは私の横に座り、何か話しをされ始められました。するとどういふ訳か、稲瀬はまだ布教所でしたが、初代三宅一恵さんの道すがらを話されたのです。当時日本まだまだ貧乏で田舎は水道も通っていない。とにかく物が無い不幸に日本人は一生懸命働いて少しでも豊かになる事が美德とされていた時代に、それを捨てて人助けをして聞かされなんとすごい人かと子供でも思いました。そう思った瞬間、心というより魂が不思議なくらい澄み切ったのでした。すると間髪入れずキラキラと光った誠にきれいな清水(実物ではな

いが)が頭の左上から斜めに身体を通り抜けたのでした。直後腰の神経が音を立ててつながりパツと立て、私もおぼもびつくりです。腰が抜けた事、魂が澄み切った事。清水が身体を通り抜けた事。腰がつながった事。全て神様がされた事と子供でもわかりました。でも何故そういう事を起こされたのが何千回何万回も50代まで思案し続けました。我家は自称分裂因縁と言え程難解で、二十代三十代四十代と苦しみから解放される事どころか、五十代には最も苦しみ抜きました。そこを通り切れたのもあの出来事で、神様の先んじたご守護にすごい以外の言葉が見つかりません。

即ち心澄んだら助かるで。の一言。

それを闇夜の提灯と
思つて通らせて頂きました。
神にもたれるとはそういう事なんだと
悟らせて頂きました。
おことばに、今まで教
えた事は、腹を立てぬ
様、心に何も掛けぬ様、
心澄み切る道やで。と
先が見えないこの世で
も、澄んだ心があれば

大丈夫と思います。
誠に一読有難とうございます。

こころの詩

笠岡の教友が選ばれ掲載されてい
たので転載いたします。(敬称略)

▼『天理時報』

▽7月9日付「時報歌壇」

・福満◎ 福島悦子さん

カープ菊池のユニホーム

われに着せ孫ら賑う米寿の祝

▼『陽気』誌七月号「道柳」より転載。

▽佳 詠

・東悠◎ 田林美智子さん

道ありて自覚の余生豊かなり

▼表紙写真

(明石市分教会提供)

あらかとよう入門塾

in 笠岡大教会

期日：2017年8月16日(水)

(今年は1日のみです)

受付：午前8時30分

開講：午前9時

閉講：午後3時頃

対象：高校生層男子

内容 大教会長様お話し
お楽しみレクリエーション
ねりあい 感話 等

参加費はいりません。

一人でも多くのご参加を
お願いします。



修養科生の声



修養科三ヶ月を通り

Joyous Life

福芦分教会 竹本裕貴

修養科に來させて頂いた理由は特にありません。社会人を三年し転職を考えていた際、せつかくの機会だからと友人、知人、両親の勧めで修養科に入學することになりました。この三ヶ月は自分と向き合い自分の為に通る期間にしようと思っていました。が、組掛という御用を頂き通っていく中で自分の中の気持ちに変化が生まれ三ヶ月は人の為に通らせて頂くと思うようになりました。

クラスには自閉症、精神病、コミュニケーション障害の身上がある方、その他にも様々な身上・事情を抱えておられる方がいました。そういう方々と日々通っていく中で自分自身すごく学ばせて頂きましたし、時には悩み、挫けそうになりましたが、クラスの方々のおかげで三ヶ月笑顔で楽しく通ることができました。入学前に思っていた修

養科のイメージとはまったく違い、とにかく楽しく、とりあえず最高で、また世界各国の方々との繋がりもでき今では修養科を勧めた方に感謝しています。

詰所生活でも色々を見せて頂き、時には不足ばかりで喜んで通れない日々もありましたが、周りの方々が心を寄せ親身になってくれたので修養科後半は毎日、喜んで通ることが出来ました。おちばで生活させて頂いたこの三ヶ月はこれからの人生を歩む第一歩と思っております。三ヶ月間、身上・事情なくお連れ通り下さいました親神様・教祖ありがとうございます。

修養科三ヶ月での成長

新輝豊分教会 杉本裕樹

私は修養科へ来るまでは、目に見える物しか信じてできなかった人間でした。つまり神様を信じていませんでした。

しかしこの三ヶ月を通ることによって、目に見えていない力の方が重要であって、神を信じてても良いかなと思える話しや体験をさせてもらえました。もともと修養科へ来る前の私は教理の

こともおつとめ何もできないし知りませんでした。その状態から勉強する教典、教祖伝はとても新鮮でした。勉強していく中で教祖のお言葉一つ一つ自分を見つめ直すきっかけとなりました。芯がなく、考えがぶれていた私でありましたが、今では迷うことがあれば、教祖の雛形をたどっていけばよいので、ぶれずに進んでいける力を手に入れたと思います。

また先生方々のお話もとても良いお話でした。自分の体験したお助けの話、人が経験した話、教理についてのおさとし。様々な講話を聞かせていただきましたので、どれか一つでも自分に合った話が聞かせていただけるとは無いだろうかと思えます。

この修養科生活で一番成長できた事は、教祖のお言葉で、「ひとがめどか、神がめどか、神さんめどやで」という言葉があるのですがそれを心に治めることができた事だと思います。初め一ヶ月の時にその言葉の勉強をした時はまったく分からず治められませんでした。二ヶ月目の時に実践して続けていくと、不思議と御守護をいただけるようになった感じがしました。最後にこの修養科生活では得られるものが大きかつ

たと思います。もし行くかどうかを考えているのであれば、ぜひ行く事をおすすめします。必ず成長できる機会が待っています。

将来への希望が生まれる

稲倉分教会 北川真菜

私は心定めする事なく、父と母に言われて修養科に來ました。最初は何を目指して頑張っていけば分からず、とりあえず修養科生活に慣れる事に必死になっていました。その中でも、私は二年前に発病したクローン病という難病を周りに理解してもらおうという気持ちが大きく、辛さやしんどさを分かってもらえない事に不足をし、ストレスや慣れない生活の疲れなどから身上が悪化、日常生活を送ることが難しくなり修養科に行っても救護室で寝ている事が多くなりました。何に対しても喜ばず、毎日毎日「なんで私が病気にならなアカんかったんやろう。」と泣く日々が続きました。心も体もボロボロになり、生きる気力さえ失いそうでした。そんな中、詰所のお風呂で一人の妊婦さんと出会いました。その妊婦さんも同じく難病を抱えていまし

た。その妊婦さんとお風呂に浸かりながら話す中で、その方のもとも幸せそうな姿に希望をもらいました。難病である自分にどうしても自信が持てず、希望を持たなかった自分に将来への希望を与えてくれました。その日から、修養科で聞かせて頂くひとつひとつの言葉全てが、心にすうと入っていき、全て神様からのメッセージの様に感じました。そして、身上をいただいた事が何よりも有難く、幸せだと心から思うようになりました。このように身上を喜びに変えられる心にさせて頂き、修養科に来て本当に良かったです。これからはこの修養科でのたすかりを人に伝えていき、自分と同じように身上で悩む人の心に寄り添い、その人達が身上を通して少しでも喜べるように、おたすけに励んでいきたいです！

修養科は救いの瞬間^{とき}

稲倉分教会 中下和美

おちばは、行こうと思っても行かれん、行くまいと思っても行ってしまうとよく聞かせて頂きます。これは修養科と同じではと思います。修養科へ行く気のない者が、身上・事情を頂き生

かせてもらう事になるようです。その一人が私です。理の親からの勧めに「今年までは行かない」と断っていた乍ら脳動脈瘤解離というのを頂きました。しかし不思議な事に頭痛もなく軽くおさめて頂きました。半年は仕事が出来ないので修養科へ行くしかないかと決断しました。担当医は安静にできるならば良いといってくれました。

修養科の私のクラスは、女子ばかりで、25人中20代が18人、50才〜82才が7人でした。若者の話について行ける心配でしたがグループに分かれて話し合うねりあいは、話が弾み内容が充実していました。お願いごとめ、回廊ふき、ひのきしんをしている中で自分のいんねんに気づき、今まで恨んでいた人に悪かったと思えるようになった人。自分の身上について心の使い方が悪かったと反省ができた人等、心の切り替えが出来た人を知る事ができました。ねりあいのメンバーは一ヶ月度に変わるし色んな人の悩み、考え方、優しさ、気遣い、思いやりを見せて頂きました。そしてねりあいは楽しく、皆が大きな声で笑う事も多く、私は担任の先生から「笠岡のおばさんもう少し静かに！」とよく注意を受けました。

修養科で頑張っていると心スツキリ、こんなに楽しくさせてもらえるんだと思いました。

長い人生のたった三ヶ月ですが、心の切り替え、運命の切り替えをさせてもらえる修養科は不思議なところだと思います。

修養科で学んだこと

福芦分教会 青山和未

31才で入信し、今回36年ぶりに2回目の修養科にお引き寄せ頂きました。詰所では5人、修養科では25人のクラスの中で様々な個性や役割を持った人同士が互いに立て合い助け合って陽気ぐらしできる心作りを勉強する機会を与えて頂いたと思えました。二ヶ月目に鷲足炎^{がそくえん}を患い歩行困難となり、借り物の体を自由に使用させて頂ける有り難さと痛む足に取り次いで頂いたおさづけの尊さが身に染みしました。慣れない生活から湧いてくる不足心に、自分の魂の徳のなさを痛感しました。相手が悪いのではなく、自分の心が相手に写っている事に気づきました。心の向きを変えるため足繁く神殿参拝し、おつとめやひのきしんに励み、身

上者に声をかけてはおさづけを取り次がせて頂く毎日でした。三ヶ月目には足の方はすっかりご守護頂きました。三ヶ月を通して朝目覚めると火水風のご守護の中に生かされていると喜び一杯になり、今日一日何か一つでも人様に喜んで頂けることをさせて頂こうと勇んで通らせて頂きました。今回は改めて教祖伝を学ばせて頂き、人間に陽気ぐらしをさせたい所以に、教祖が50年のひながたを通して、おつとめとおさづけを私達にお残し下さったと深く感動しました。

今後、おちばの理を受けた所属教会への日参、月次祭はおつとめ奉仕とひのきしんを続け、26日のかぐらづとめ参拝は欠かさない。7月から復帰予定の職場では看護用木として傍々を楽さす働きを続ける。7月末のこどもおちばがえりに一人でも多くの子供を誘いスタッフの一員で参加する。半日はにいがけ・おたすけに回らせて頂き、一言話とおさづけのお取り次ぎを実行していく。そして、布教所のおつとめの完成を目指したい。これらの心定めを実行する上で、所属教会長の理に添いきれるよう成人させて頂きたいと思えます。

タンザニア 訪問記①



芳井分教会長夫人
佐藤和代

8年前初めてタンザニアへ付いて行かせて頂いてからいろいろなことが変わっていつている。

まずは家族が増えたこと。衝撃を受け帰国後すぐさま登録した里親制度から、現在3人の子供を預からせて頂いている。

次に、教会で里親として里子ちゃんたちを養育していく中で周りの地域の方たちの教会に対する視線が柔らかくなっていったこと。

最後に私の大きさ!?

5回目の今回も、置かれている日常に感謝できる自分になりたい。すべてに感謝できる一瞬を味わいたい。そう心に決めて臨んだ!

私にはいつもここへきて思うことがある。

「もしここへ住んでも何とか過ごすことは可能なのか?」

「住む以前に自分たちだけで目的地にたどり着けるだろうか?」

今回4人での訪問の中で決まっているスケジュールをこなしながら、合間の時間を使って試しに町を歩いてみた。そう思っていた。

▼5月30日

いつものようにイスラムの祈り声とキリスト教の元気な歌声が真逆から聞こえてくる。

「どうしてこんなに一所懸命に歌を歌い続けていられるのか、祈りをささげ続けていられるのか」と。純粋に尊敬しながら朝を迎えた。時計を確認するが今日も目覚まし時計が鳴る前に自然と目が覚めた。

今朝、志郎先生はナイマのお父さんと経営する会社の様子を見せてもらったり、推薦してくれているNGO組織についての手続きなどをするために彼女の家へステイプと一緒に行くという予定である。

それを聞いていたので私はチャンス到来を感じずにはいらなかった。

いつもの行程も同じように全員で行動していたこれまでだが、今日はいくつかしたら別行動ができるかもしれない。英語もできない、スワヒリ語もできない私はどこへ行っても何も役に立たない。

立っていない。

「賑やかせなのかも:いや、若い女子ならまだしも45歳じゃ賑やかせにはならないか:」とついていくだけでは自分の存在価値をあれこれ思う。

そこでスケジュール確認の際に思い切って志郎先生に提案してみた。

「昨日行った孤児院へもう一度行ってそこに来ていたボランティアの日本人学生さんと話がしたい。そしてもつと子供たちと遊びたい。孝君と一緒にそれを行けそうな気がする」と。

志郎先生は快諾してくれて、私は20歳の孝君と一緒に二人だけでドラエスラムの町へ出掛けることになった。

志郎先生とステイプは先にホテルを出発したため、部屋でドキドキしながら準備をした。

○天理教パンフレット

○道に迷った時のスワヒリ語

は忘れずに鞆に入れた。

これまで4度の訪問の中で、一度もこうして外出したことはなかったため無謀な気もしたが、孝君という心強い?若者と一緒にここタンザニアで冒険できることは貴重な時間になるだろう!と思った。

しかし同時に何かあった時どうした

らよいか?と不安のよぎる中、とにかく信仰にまつすぐな姿勢で歩けば間違いはないと、ホテルを出た。

「孝君どっちに行こうか?」

日本でも笠岡に行くだけでナビを使うほど方向音痴な私は、とにかく根拠のない孝君の道案内のみが頼りだった。少し歩くと近くにちよつと英語の分かりそうな人を発見したのでその青年に近づき話しかけた。

青年の名前は「Pablo」ちよつと顎にひげを生やしていた。

この本当の名前かどうかは知らないが、道行く人に話しかけても英語がわかる人が見つからない中で、英語がわかる彼に嬉しくてすぐさま英字パンフレットを見せた。そのあと、二人して中学生で習ったような英語の文章をいくつか並べて、その彼の反応を伺った。

「このあたりで体調の悪い人を知りませんか?神様にお願ひさせてほしい。私たちは日本から来ました。」

伝わったかどうかは定かではないのだが、彼は電気関係のエンジニアで、このバスセンターの辺りは自分のエリアだからわかるよ。と説明してくれた。と思う。

それから知り合いの靴屋さんのとこ



孝君靴屋さんにおさづけ

ろへ連れて行ってくれた。彼は胸と膝が悪いらしく、二人でおさづけを取り次がせてもらうことができた。Prayer roomも、靴屋さんも一体何が始まるんだ?というような目をしていたが一所懸命何かに願う私たちに身を任せてくれていたように感じた。別れるとき、「またここへ来れるかな?」そう思った。

志郎先生は3度のおさづけを!とよく言われているのだが、再び同じ場所に来れる自信はない。この一瞬をいとおしく感じながら彼らと別れた。

出発して約2時間?…20歳の孝君と私はヤチマ孤児院へ向かって歩いてはるはずだ。孝君はここへ来る前、大教会でみた彼より少したくましく見えていた。

歩きながらふと、日本にいる私の子供たちがもし、今ここにいたらどういう行動をとれるかな?とよぎった。孝君には相手が私で申し訳ないなと思いつながら、もしも、いつかうちの子がここを歩くときは志郎先生か、千枝子さんと一緒に歩いてもらいたいな!と勝手に思った。我が子たちはここまで私たち夫婦が合わせて7回もここへ来ているのに、一度もタンザニアへ行きたい!と言ったことがない。しかし、なぜか今回は長男も長女もついてきたそうなる言葉で出発の際応援の言葉をくれていたので、同年代の孝君の頑張り是我が子たちにもかなり影響するように感じた。

そして大人なのに、方向もわからない無力で無謀な自分を再確認しながらも、若干早歩き孝君について歩いてきた。

ここは大きなバスセンターの通りで常に人が行き交っている。雨上がりのどろどろの道だったので、時々大回りして水たまりをよけたりして歩いて行った。

歩きながらふと笑顔の素敵な同年代



笑顔の素敵なおばちゃん

くらいのおばちゃん目があった。スワヒリ語だったので何を言っているのかさっぱりわからなかったが、「一緒に写真を撮ろう!」と言っていたことが身振り手振りで分かった。

そこで、一緒に写真を撮ってもらった!「言葉がわからなくても伝わるんだな」と彼女のお店でジュースを飲み、何か会話をして笑顔でその場をわかれた。

孝君と「なんか笑顔のすてきなおばちゃんだったよな」となんて言いながら、通りすがりのタンザニアの人たちに目が合うたびに挨拶してすっかり楽しんでいました。

しばらく行くと道案内してもらったはずなのに、思う位置に孤児院らしきものが見当たらない。実は私たちはヤチマ孤児院としか知らず、住所や電話番号も知らなかったため、親切なタン

ザニア人に「ヤチマ、ヤチマ」と繰り返して道案内を頼んでいたのだが、ココでも「ヤチマ孤児院はどこ?」と聞いていたらその人が「ヤチマというのは孤児って意味だよ」と教えてくれた。「〜ということは何?」今まで私たちが道を聞いていたのは「孤児はどこ?」って聞いていたことになる。

孝君と2人で「えくそうなんだ?」と驚きながら、「じゃあ、私たちが行くこうとしている孤児院の名前は何?」という疑問が湧きたち二人で目を合わせ、すぐさま志郎先生に電話して聞くことにした。

そこで道を探ねた青年と志郎さんの電話を取ったステイブとが話をしてくれて「それはあつちだよ」と教えてくれた。

歩いていこうとしていたが、私の足も痛いし、道を教えてくれた青年もバイク便でいけばいい!と言ってくれるし、「近いよ?」というのはどのくらい近いかわからないという理由から、「大丈夫だろう!バイク便にチャレンジしよう!」ということになった。

すぐそこにバイク便のお兄さんたちが4、5人道に迷った外国人をチラチ

ラ見てくれている。結構優しい目をしていて白い歯も輝いている。

孝君がすぐさま交渉！

一人2千TS(タンザニア・シリング)

とバイク便の青年は言ったが、孝君は「いや千五百」と何回か交渉して結局2台で3千TSでお願いした。

5百TS安くしてもらっただけではあったが、なかなかうんと言ってくれなかった。

千5百TSは、約1ドルくらい。ということはガソリン代も日本と変わらないココではほぼ儲けがない。「だからか。」そう思った。

バイクの後ろに乗るのは生まれてから2回目。1回目はうら若き学生時代。そして今が2回目ここタンザニアだ！保証制度も全くない、怪我をしても誰も何も補償してくれないことはわかってるが、この場合挑戦するしかない。

乗り方がいまいぢわからないまま、しつかりとつかまって何分間か落ちないように頑張った。道はガタガタで1メートルくらいの大きさの穴ぼこは日常で、運転は難しいはずだがスムーズな運転であつという間にヤチマ孤児院？についた。ホテルから4時間以上？かかった。(つづく)



バイクに乗りました！

六月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様には一列人間の陽気ぐらしをする様を見て共に楽しみたいとの思召から心の自由をお許し下され天然自然のお働きを通して陽気ぐらしが出来ると御守護下さっております事は誠に有難い極みでございますしかるに親心を忘れ我が身勝手の手心遣いにより世界一列兄弟が助け合うどころか 苦しめ合っている現状は誠に申し訳ない次第でございます。このお道を信仰させている私共は 天保九年より教祖を通して世界一列を助ける為にお働き下さっている親心にお応えすべく 朝夕に御礼申し上げつつたすけ一条のご用の上に努め励まして頂いております。お陰に依りましてこの度アフリカタンザニアの地に初めて神実様をお鎮めする事が出来教祖のたすけの広大さを感じる事が出来ました。誠にありがとうございます。

そんな中本日はたすけの元立てたるおつとめをつとめる日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同 たすけ心も一人に明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめて六月の月次祭を執り行わせて頂きます。御前には今日の日を樂しみに寄り集い 同じ思いに伏し拝み 日頃の「ご高恩に改めてお礼申し上げる道の子供達の真実の様をご覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます。

さて今年も半年が過ぎようとしています。果たして次の塚教祖百四十年祭に向けての歩み出しが十分に出来ているか ひな形を見失っていないか 真実を尽くしているかどうか 今改めてこの半年を振り返り あと半年「世界一列を助けたい」との親心に少しでもお応えできるように精一杯努めさせて頂く所存でございます。又そういう人を育てていく為にも子供おぼがえりや学生生徒修養会等に一人でも多く参加して貰えるよう声掛けに邁進させて頂きたいと思ひます。

何卒親神様には 親孝心一条に親心の真実を伝えるべくたすけ一条に邁進する 皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上にも尚も自由の御守護をお現し下さり 親心に触れ一列兄弟の理に目覚め共にたすけ一条に邁進する人が増殖して お望み下さる陽気ぐらしの世の中が一日も早く実現しますようお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます。

◎教人資格講習会修了者

立教180年7月11日終講
福満 福島友美



ダジャレ統領4人いる。そう、あなたのすぐ近くにも突然現れるオヤジギヤグの伝道師である。ニュースで毒アリが出て大騒ぎすれば「ヒアリ!!!」 「無視できない」ややウケて無いと見るや「・・・アリ?」子どもおぢばがえりが近づく去る6月のある日、詰所の洗面所水回りを磨くひのきしんをしていた。ステンレスの洗面台・蛇口にこびりついた水垢を耐水ペーパーやブラシを使って磨くうちだんだん本格的になっていき、蛇口の回らなくなつた首を分解したり、排水溝の錆びて動かない中蓋までお掃除。徹底的に時間を忘れて作業していた。するとその時一緒にひのきしんしていた伝道師のT林先生が「シマッタ! やつてしまった!」と連呼しながら助けを呼ぶので現場に行くと「大事なへらを排水溝の

ENGLISH SEMINAR

～ 第75回英語講習会 ～



今年も海外からネイティブの英語の先生が来ます。



会話を中心に役立つ英語を勉強しましょう。

初めての人、大歓迎! 英語が好きな人も、そうでない人も明るく楽しく英会話を勉強しましょう! にをいがけに役立つ「布教英会話クラス」も始めています。東京オリンピックで役立つ可能性が広がるかも しれませんよ!



[募 集 要 項]

期 間	: 8月7日(月) 午前9時00分 大教会受付 午前9時30分 開講 ～8日(火) 午後3時ごろ 大教会解散
受講対象	: 小学4年生以上、中学生、高校生、大学生、一般
受講御供	: 1500円(宿泊費、食費、受講費など、全て込み)
持参品	: 英和、和英辞典(あれば)、筆記具、着替え、洗面具等
プログラム	: 少人数による英会話学習、英語ゲーム、講話、 テーブルマナー、お楽しみ行事等

尚、詳細はスタッフの上原志郎 Tel 0865(66)1311
吉岡誠一郎 Tel 086(282)0550

もしくは、大教会までお尋ねください。

(御連絡下されば、当日、JR大門駅まで送迎いたします。)

◇ 主催 天理教笠岡大教会 海外部

714-0066 笠岡市用之江377 0865(66)1311

底に落としてしまった」と。その表情には悔しさと悲しさと諦めに満ちていた。なのに、私が排水溝を覗いた瞬間に「ドレンドレン??(どれどれ?)」とつぶやくT林伝道師。私も苦し紛れに苦笑いしながら「排水溝だけにつまらなく良かったですね」ダジャレ統領はダレじゃ? (ほ)